

横浜

Yokohama Renaissance

ルネサンス

Number 15

特集 ミュージアムの
顧客創造力

Who's Who in YOKOHAMA

木村和司

Capock YOKO

ごあいさつ

横浜信用金庫理事長
斎藤 寿臣

『横浜ルネサンス』第15号をお届けします!『横浜ルネサンス』は、当金庫の創立80周年記念事業の一環として、2002年10月に創刊しました。当初は年1回の発行でしたが、2006年から春と秋の年2回発行としています。

本号では、特集「ミュージアムの顧客創造力」と題して、魅力的な企画を実施したり、さまざまな工夫を凝らして大きな集客力を誇るミュージアムの館長の皆さまを取材しました。

WHO's WHO in YOKOHAMAでは、横浜F・マリノスの新監督である木村和司さんと、ジェリービーンズコンサートの常連でフルアルバムの全国発売をまじかに控えるバンド、Capockのドラムス担当のYOKOさんをご紹介しました。

第8回「横浜の聴き方」では、柳ジョージ&レイニー・ウッドのアルバム『Y.O.K.O.H.A.M.A.』を取り上げています。

『横浜ルネサンス』第15号、お楽しみいただければ幸いです。

A Table of Contents

横浜絵解き図絵／もやしの原料「緑豆」の輸入	2
目次／理事長挨拶	3

特集 ミュージアムの顧客創造力

池田修 BankART 1929 代表	4
芸術の実験だけでなく 経済の実験でもありたい	

坂本堅五 シルク博物館館長

企画展で、潜在的な 観客層を掘り起こす	6
------------------------	---

清水繁 日本郵船歴史博物館館長	8
年間の入館者数が、 わずか5年で倍増	

富田由起夫 環境エネルギー館長	10
リピーターの増加で、 過去最高の入館者数を達成	

西川杏太郎 神奈川県立歴史博物館館長	12
多角的な改善策が奏功し より親しまれる博物館へ	

西野文章 日本新聞博物館館長	14
エンターテイメント性で 子どもの新聞離れを解消	

横浜を詠む 水原紫苑 写真：矢部志保

Who's Who in YOKOHAMA

木村和司 横浜F・マリノス監督	18
いいサッカーを見せるために F・マリノスに賭ける	

YOKO Capock・ドラムス	20
初めてのフルアルバムは 集大成にして自信作	

横浜の聴き方 第8回 中島久	22
『Y.O.K.O.H.A.M.A.』柳ジョージ&レイニー・ウッド	

横浜ジェリービーンズ倶楽部通信	23
-----------------	----

◎横浜絵解き図絵

もやしの原料「緑豆」の輸入



もやしの生産は天候不順の影響を受けて安価で安定的に供給されるところ

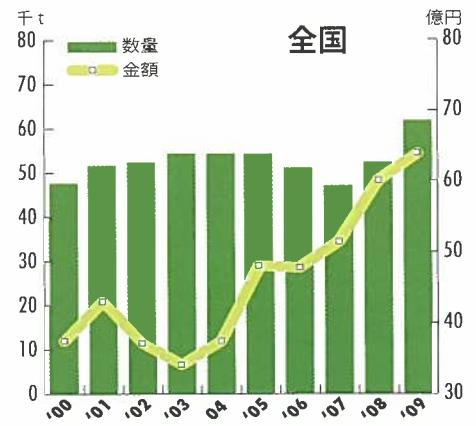
から“物価の優等生”とされている。また、タンパク質、ビタミンC、鉄分および食物繊維が豊富に含まれていることもあり、景気が悪くなるとももやしの消費量が増える傾向にあるようだ。

厚生省の家計調査をみると、2人以上の世帯におけるもやしへの実質支出額は2007年(H19)7~9月期以降増え続けている。また、そんな時代状況を反映してか、2009年度(H21)の全国におけるもやしの原料となる緑豆の輸入実績は61,792トン(対前年比+18.4%)、と2年連続で増加している。同年の横浜港における輸入数量は30,956トン(対前年比+22.3%)と大幅に増加した。輸入先の第1位は中国で、全国で89.9%、横浜港で95.1%を占めている。以下、全国レベルではミャンマー(9.2%)、タイ(0.8%)、マレーシア(0.1%)と続く。横浜港に水揚げされるもやし原料の緑豆は、輸入数量、輸入金額ともに22年連続してトップ・シェアを占めているが、これは横浜港に緑豆を定温で保管するなど取り扱いに慣れた倉庫が多いことや、関東圏にももやしの製造工場が多いことが要因となっている。

もやしは、豆類など食用の種子を発芽させたものを指す。スーパーなどでは緑豆、ブラックマッペ、大豆の3種類がおもに販売されているが、この他にも、大根の種子を発芽させた「カイワレダイコン」や、細もやしとも呼ばれる「アルファルファ」、エンドウの種を発芽させた「豆苗」などがある。変わったところでは、ソバやヒマワリの種から発芽させたもやしもある。

ブラックマッペは、戦後にタイ、ミャンマーからの輸入が始まり、中華料理の普及と共に1965年(S40)頃から増加した。以後、1985年(S60)頃になるとスーパーマーケットに定着し、ラーメンや鉄板焼き(ジンギスカン鍋)の需要から人気

輸入実績推移



は急激に高まった。手軽に購入でき多様に調理ができるブラックマッペももやしの普及にしたがい、生産コストの高い大豆もやしは衰退した。現在の「豆もやし」の代表「緑豆もやし」は1987年(S62)以降普及したもので、食味と食感が好まれて急激に普及した。

芽野菜はスプラウトとも呼ばれる。ブラックマッペ、緑豆、大豆のもやしを含める場合と含めない場合があり、また発芽後、最初の葉である双葉が開いた状態をスプラウトと呼ぶのだとする説もある。

関東では緑豆・大豆を使った、色が白く太めのシャキシャキ感のあるものが好まれる。関西ではブラックマッペを原料とし、どちらかといえば細くて長く、もやし特有の風味があるものが好まれるようである。

1929（パンカート。以下、BA）だ
代表を務める池田修さんはいう。
「去年だけでも、ヨーロッパやアジアから
40団体ほどの芸術関係者や行政の方々が
視察に来ましたね。海外だけでなく、国
内の地方都市からも多く来ます」
日本部岱の会報を改表^トして定期はつと
日本部岱の会報を改表^トして定期はつと

歴史的建造物を適切に活用する先行事例

このところ、世界中から注目を集め
るアートスペースが横浜にある。それ
は、馬車道に位置するBankART
1929(バンカート。以下、BA)だ。
代表を務める池田修さんはいう。
「去年だけでも、ヨーロッパやアジアから
40団体ほどの芸術関係者や行政の方々が
視察に来ましたね。海外だけでなく、国
内の地方都市からも多く来ます」
日本郵船の倉庫を改装した空間はたつ

この夏 ヘルシンに拠点を創出

BAがスタートしたのは2004年(平成16)のことだ。現在の場所に移る前は、1929年(昭和4)に建てられた旧第一銀行と旧富士銀行の建物を拠点としていた。それが“バンカート”的由来である。そして、当時の横浜市長だった中田宏氏が打ち出した「クリエイティブシティ・ヨコハマ」の先行事例として、BAは着々と活動の幅を広げていった。その成果はさまざまなもので現れている。(3-Aが主力を務めてから、東京やよそ

とともに、交流の場を築く計画である。

とともに、交流の場を築く計画である。

この夏、B Aはベルリンに進出。クリー
ターが集まり、レセプションと都市が活性化
する。このように、B Aは官と民が相互
にリレーをしているところにも特色がある。
こうした都市政策の面からも国際的に注
目され、たとえば韓国では横浜の影響で
アート系の施設がぞくぞくと生まれつつ
あるほどです」

「自立した活動を展開するためには、経済は無視できません。それに、行政や自治体からの補助金や助成金のみに依存していくは継続性が乏しくなる。だから独自の収益源が欠かせない。入場料収入をはじめ、カフェやショップの売上げ、スクールの受講料、それに芸術系大学の卒業制作展などのスペースレンタル料など、こここの年間収入は8千万円ほど。BAは芸術の実験だけではなく、経済の実験でもあるんです」

「やりたいことがあるから、自由に使えるお金を作りたい」▼

「もちろん、その狙いは營利ではない。

助成金のみに依存せず、自己収益で運営
B.A.が目を向けるのは海外だけではない。地域の人たちにも親しまれる施設であることも心がけてきた。たとえば、近隣の飲食店と連携した展覧会シリーズ『食と現代美術』を実施。好評を得て、これまで6度も開催した。さらに去年からは、横浜在住者は展覧会に半額で入場できるようにもした。こうした取り組みもあり、年間入場者数は約2万人にも上

芸術の実験、だけでなく
経済の実験でもありたい



BankART1929：時間や料金などはイベントにより異なる 所在地＝横浜市中区海岸通3-9、電話＝045-663-2812 展覧会情報：『コトバノチカラ』(5月30日まで、11時30分～19時、会期中無休、入場無料) 5月28日～6月2日Spring Open 2010 BankART AIR プログラム(入場無料)
6月5～6日 市民創発・環境行動フォーラム2010 主催：横浜市(入場無料)
<http://www.bankart1929.com>

いけた おさむ P.H.スタジオ代表を兼務
築を横断するチーム「P.H.スタジオ」を発足
部科学大臣新人賞(芸術振興部門)を受賞。

1957年 大阪府生まれ。Eやミーハー・小暮裕也著者にはむことなうこに「吉澤謙之助」。
2004年からBANKARTの立ち上げと企画運営に携わる。2008年 芸術選撰文

坂本堅五さん

シルク博物館館長



企画展で、潜在的な観客層を掘り起一^こす

シルク博物館：時間=9時～16時30分、料金=一般500円ほか(特別展は別料金)、休館=月曜(祝日の場合は開館・翌日休館)、所在地=横浜市中区山下町1、電話=045-641-0841
特別展情報：『華麗なる能装束 稔りの季』(6月1日～8月29日)、『第21回全国染織作品展』(10月9日～11月14日)
<http://www.silkmuseum.or.jp>

継続性のある教育プログラムで集客増

横浜といえばシルク——。若い人はさておいて、お年寄りはいまだにセットで当たり前のように思い浮かべる人が多い。「日本はかつて、世界一の生糸産出国でした。そして、輸出の窓口となつたのが横浜です。開港から第二次大戦が始まるまで、貿易高の第1位は生糸が占めていたほどなんですよ」

こう語るのは、シルク博物館の坂本堅五館長。1959年(昭和34)に設立された同館は、子どもの教育にも熱心に取り組む。たとえば毎年5月には、横浜市内の幼稚園や小学校約700個所に蚕の卵を配布。「子どもたちは蚕を飼育するうちに興味が高まり、当館を訪問してくれる」と坂本館長はいう。

そして、夏休みには特別展『親と子のかいこの自然科学教室』を開催しており、多くの家族連れで賑わう。「当館では、生きたままの蚕を見せ、その成育を紹介しています。お母さん方は『気持ち悪い』と目を背けがちですが、子どもたちは『かわいい!』と喜ぶんですね。お子さんはみな、昆虫が大好きですかね」

さらに冬には『かいこの観察記録展示

会』を実施。蚕を育てた子どもたちによるスケッチや工作を一堂に見せる。つまり、同館の子ども教育用プログラムは単発ではなく、継続性のある企画になつている点に特徴がある。そして、一連のプログラムが集客効果にも確実につながっていることも注目したい。

1ヶ月で年間入館者の3割が来た企画展

子どもの教育の他にも、シルク博物館には特色がある。

そもそも同館は、絹の科学と技術を紹介し、絹織物の工芸美も鑑賞できる施設である。ここしばらくの年間の入館者数は、3万人から3万3千人の間で推移してきた。ところが、昨年度は『開国博Y150』の影響もあり、約3万6千人を数えた。また、一昨年は、約3万7千人を記録していた。これは、『ハワイ日系移民140年 アロハ・デザイン展』が人気を博したからだ。同展は、1930年代から50年代にかけて仕立てられた貴重なビンテージのアロハシャツを展示すると、いつ内容で、入館者は約1ヶ月でおよそ1万2千人にもおよんだほどだ。坂本館長は振り返る。

「当館には珍しく、30～40歳代の男性の入館者が多く見えましたね」

子どもにとつては楽しく、年配の方々には記憶を呼び覚ますミュージアム。それがシルク博物館なのである。

館長自らメディアに出向き、熱心にPR

このように、企画展の内容によって、潜在的な観客層を掘り起こし、動員増を達成することもできるのだ。そのため坂本館長は、広報活動に積極的に携わる。企画展のたびに毎回、新聞社やテレビ局などに自ら出向いて、熱心にPRに取り組むのである。

なお、この博物館は海外の絹織物を展示し、シルクを通じて文化交流を行うことを目的のひとつとしている。アロハシャツの展覧会もその一環である。また、この春に開催された『シルクロード浪漫ベルシアシルク絨毯の世界』では、イラン国立絨毯博物館所蔵のシルク絨毯などを展示。絢爛な文様と図柄、そして精巧な技術に、多くの鑑賞者が息を飲んだ。一方、常設展示室には昔の織機もあり、入館者は実際に機織りや糸綴りが体験できる。とはいって、いまや神奈川県内の養蚕農家はわずか12軒を残すのみ。蚕や機織りは日常から遠ざかっただ観がある。

「お年を召した方は、織機を見て懐かしがられますね」

子どもにとっては楽しく、年配の方々には記憶を呼び覚ますミュージアム。それがシルク博物館なのである。

清水繁さん

日本郵船歴史博物館館長



日本郵船歴史博物館：時間=10時～17時、料金=一般500円ほか、休館=月曜(祝日の場合は開館、翌日休館)、所在地=横浜市中区海岸通3-9、電話=045-211-1923
展覧会情報：『船をとりまくアール・デコ』(6月6日まで)
<http://www.nyk.com/rekishi>

年間の入館者数が、わずか5年で倍増



入館者の呼び水となる、歴史的建造物

「当館の強みは、なんといっても建物。この建物そのものが歴史的なモニュメントですからね」

こう語るのは、日本郵船歴史博物館の清水繁館長。1936年(昭和11)に建てられた横浜郵船ビルは、正面にギリシア風の16本の大柱を構え、古風で独特な佇まいを見せてている。この建物の1階にあるのが同館だ。

「建物のおかげでマスコミで紹介される機会が多く、テレビや雑誌などを見て訪れる方もたくさんいます」

実際、来館者のアンケートでは「ビルの前を通るたびに、いつか中に入りたいと思っていて、今日、初めて実現できた」といった回答が多く寄せられる。つまり、「建物が呼び水なんです」(清水館長)、ということだ。

同館は2003年(平成15)6月に

リニューアル・オープン。翌年の年間入館者数こそ1万5千人ほどだったが、それ以来、集客は順調に右肩上がりを続け、

昨年度はついに3万人を突破した。つまり、わずか5年の間に入館者数は倍増したのである。もつとも、この飛躍的な動員増の原因

は、何も建物によるアピール効果だけとは限らない。清水館長は「地道な活動の成果です」と語る。

氷川丸と一体化した効果的な連携プレー

この4月、氷川丸が誕生して80周年を迎えた。日本郵船のこの元貨客船は一昨年にリニューアルを果たし、一般公開を再開。これに伴い、日本郵船歴史博物館の入館者も増えた。

「横浜のシンボルである氷川丸と当館を

うまく関連づけ、このふたつを同時にアピールし、双方に足を運んでいただけるよう心がけています」

具体的には、同館のチケットの半券で氷川丸に無料で入ることができ、お得な両施設セット券も用意した。こうした相乗効果を図る狙いが当たった。

一方、06年(平成18)1月から同館では『コンサート・イン・ミュージアム』の開催を始めた。毎月第3土曜に実施されるクラシック・コンサートだ。当日は、入館料のみでクラシックの生演奏が満喫できる。

「音楽鑑賞の場であるとともに、アマチュア音楽家たちにとっては演奏を発表する場でもあります。コンサートが目当てのリピーターのお客様もいるほどで、人気

が高いんですよ」

近代海運史と社史が重なるメリット

そして、肝心の展示も充実。近代から今までの海運史をたどる映像や貴重な写真、豪華客船のパンフレットや、迫力あふれる精緻なモデルシップなどで構成されている。

「開国から日清、日露戦争と激動の時代を歩んできた近代海運史は、弊社の社史と重なります。当館は企業ミュージアムではありますが、この点でアドバンテージがあり、稀少なコレクションも揃っていると思いますね」

また、企画展は多角的だ。日下、開催中の『船をとりまくアール・デコ』は、船を主題としつつアートやデザイン寄りの展示である。さらに昨年は、客船の楽隊にスポットを当てた展覧会『ミナトに響いたJAZZと汽笛・ジャズを運んだ樂士たち』も話題となった。

「企業色だけを前面に押し出すのではなく、より多くの人に楽しんでいただける博物館がモットーです」

展示、イベント、そして横浜のシンボル。この三位一体が、日本郵船歴史博物館が好調に右肩上がりの集客増を続いている理由だろう。

一般的にミュージアムや文化施設といえば、静かにおとなしく鑑賞する場である。だが、東京ガスが運営する環境エネルギー館は例外といえる。展示室内で子どもたちがはしゃぎ、笑い、歓声をあげる。その様子は、文化施設というイメージを覆すほどの賑やかさだ。同館の富田由起夫館長は朗らかに語る。

「屋上の緑化施設『ビオトープ』では、元気がよすぎて池に落ちてしまう子どももいるほどです」

同館は、子どもたちに向けた環境学習の場。「ワンドーシップ」という愛称で親しまれ、方舟を模した外観が特徴的だ。そして、地球やエネルギーなどに関する多彩な展示を繰り広げるが、堅苦しい「お勉強」色は薄い。その代わり、ゲーム性や楽しさを重視し、体験型、参加型の展示物が多いことが特色である。

「当館の大半の展示物はバーチャルでもデジタルでもなく、あくまでもアナログ型。手で触つたり体を動かして体験できます。子どもたちは具体的な体験から驚き、感動し、『なぜ?』『どうして?』を深めていきます。その上で、社会や生活の方を学んでもらいたいと考えています」

同館は、子どもたちに向けた環境学習の場。「ワンドーシップ」という愛称で親しまれ、方舟を模した外観が特徴的だ。そして、地球やエネルギーなどに関する多彩な展示を繰り広げるが、堅苦しい「お勉強」色は薄い。その代わり、ゲーム性や楽しさを重視し、体験型、参加型の展示物が多いことが特色である。

「当館の大半の展示物はバーチャルでもデジタルでもなく、あくまでもアナログ型。手で触つたり体を動かして体験できます。子どもたちは具体的な体験から驚き、感動し、『なぜ?』『どうして?』を深めていきます。その上で、社会や生活の方を学んでもらいたいと考えています」

体を動かし、「なぜ?」を深める仕掛け

一般的にミュージアムや文化施設といえば、静かにおとなしく鑑賞する場である。だが、東京ガスが運営する環境エネルギー館は例外といえる。展示室内で子どもたちがはしゃぎ、笑い、歓声をあげる。その様子は、文化施設というイメージを覆すほどの賑やかさだ。同館の富田由起夫館長は朗らかに語る。

「屋上の緑化施設『ビオトープ』では、元気がよすぎて池に落ちてしまう子どももいるほどです」

同館は、子どもたちに向けた環境学習の場。「ワンドーシップ」という愛称で親しまれ、方舟を模した外観が特徴的だ。そして、地球やエネルギーなどに関する多彩な展示を繰り広げるが、堅苦しい「お勉強」色は薄い。その代わり、ゲーム性や楽しさを重視し、体験型、参加型の展示物が多いことが特色である。

「当館の大半の展示物はバーチャルでもデジタルでもなく、あくまでもアナログ型。手で触つたり体を動かして体験できます。子どもたちは具体的な体験から驚き、感動し、『なぜ?』『どうして?』を深めていきます。その上で、社会や生活の方を学んでもらいたいと考えています」

団体利用を大幅に上回るフリーの入館者

設立は1998年(平成10)。オープニングしてしばらくの間は年間入館者数が10万人前後で推移したもの、その後は着々と増え続け、今年3月には入館者の累計が150万人をついに突破した。そして、昨年度の年間入館者数は約16万人を達成。この数字は、開館以来の最高記録を誇る。だが、富田館長はこの結果を喜ぶどころか、むしろ悔しい思いを隠さない。

「実は、あと327人でちょうど16万人だったんですよ(笑)」

来館者増の秘密はどこにあるのだろう? 同館には小学校を中心に団体も多くの訪れる。個々の学校の要望に応じ、事前に教員と打ち合わせた上で見学プランをトータルにコーディネイトするという細やかさである。この点も大いに注目に値するが、実は団体利用者数は、全入館者数の一部にすぎない。むしろ、一般的のフリー来館者数が全体の4分の3近くを占めるほど。要するに、自らの意志で子どもたちや家族連れがここを訪れるのである。

「学校見学で来館した子どもたちが、家族と一緒に再来館することが多いのも特徴です」

同じ展示物でも、いつも新鮮に楽しめる

同館には、「インタープリター」と呼ばれるスタッフ24名が勤務。展示の案内などを務めるが、マニュアルに沿ったガイドでは断じてない。

「同じ展示物を、いつも同じように見せるつもりはありません。インタープリターは各人各様、クイズを出したり、ゲームをしたり、24人がそれぞれの方法で子どもたちと接しています」

インタープリターと子どもたちの距離は近く、親しみやすいお兄さん、お姉さんは目當てに毎日のように通う子どももいるそうだ。また、同館では年間5回さまざまなイベントを実施。そのプログラムもインターパリター自らが企画し、実行する。

「イベントに訪れた家族連れが、あらためて展示をご覧になるために訪れるケー

スも多くありますね」

こうした積み重ねが功を奏し、リピーターが増加した。年間入館者数の最高記録を樹立した理由のひとつは、この点にあると言えるだろう。

名称に社名を冠せず、真に子どもたちと向き合い、ともに考える施設、それが環境エネルギー館なのである。▼

リピーターの増加で、過去最高の入館者数を達成



環境エネルギー館：時間=9時30分～17時、料金無料、休館=月曜(祝日の場合は開館、翌日休館)、所在地=横浜市鶴見区末広町1-7-7、電話=045-505-5700
<http://www.wondership.com>

富田由起夫さん

環境エネルギー館館長

西川杏太郎さん

神奈川県立歴史博物館館長



多角的な改善策が奏功し より親しまれる博物館へ

以来、より親しまれる博物館となるよう、さまざま工夫を重ねた。

いとりますけどね」

神奈川の歴史で日本史の全貌も把握可能

「オーケストラとコンサートホールは、とかく金食い虫だとよく言われます。運営費の1割を入場料収入で取り戻せれば優秀とされるほどですか。そして博物館も同様のことが言えますね」

こう語るのは、神奈川県立歴史博物館の西川杏太郎館長。館長の説明によると、東京国立博物館の年間運営経費は約16億円（20年前）。一方、ロンドンの大英博物館はその4倍の64億円もコストがかかります。そこで、入館料収入はどうと……。

「東博はおよそ1億6千万円。つまり1割。でも、水道光熱費に同じくらいの費用がかかります（笑）。そして大英博物館の入館料収入はゼロ。入館無料ですか」

それでも運営できるのは、民間企業や個人からの寄付に支えられているからです。イギリスに限らずヨーロッパでは、多くの人たちが芸術や文化事業に寄付することを誇りに思っています。たとえば友人と一緒にコンサートに行き、パンフレットの寄付リストに記載された自分の名前を満足気に見せたりするんですよ」

ヨーロッパの博物館や美術館は街の人たちにとても親しまれている。そこで西川館長は、2002年（平成14）の就任

ライトアップや開館時間などが実を結ぶ

真っ先に手がけたのは看板だ。以前も看板はあつたが、控えめなものだった。

「そこで馬車道の角に、大きな看板を立てました。通りすがりの人に、博物館の存在を知らせようということです」

また、夜間は建物入口をライトアップして花を添え、特別展の期間中は会社員が仕事帰りに鑑賞できるよう金曜は8時まで開館時間を延長した。

さらに入館者へも配慮した。

「日本では博物館を学ぶ場だと思っている人が多くいます。展示品のそばに解説文を書いたプレートがありますが、あれをじっくりと3分も読むのに、展示品はたった10秒しか見ない。もっと展示品をじっくりと見せる工夫をしないと」

そこで西川館長は解説文の長さを半分に減らし、文字も大きくした。こうした数々の取り組みが実を結び、以前は約11万人だった年間入館者数は、西川館長の就任後は約14万人へと上昇した。館長は笑いながら謙遜する。

「私たちの努力というより、みなとみらい線が開通した効果のほうがはるかに大きい線が開通した効果のほうがあるかない高

神奈川には貝塚や古墳が多く、鎌倉を実施した。たとえば、中高生に向けてワークシートを作成。日本史の教科書と比べながら、同館の展示品を目の当たりにできる教材だ。

「神奈川には貝塚や古墳が多く、鎌倉があれば横浜もあります。ですから、神奈川の歴史をたどると、日本史の全貌も把握できます」

それから、ボランティア制度が充実していることも同館の特色のひとつ。入館者へのガイド役が務められるよう特別展などに学芸員による研修を実施し、さらには控え室も用意している。

「ボランティア・スタッフたちは本当に積極的で、自ら率先してボランティア・ニーズを制作するほどなんです」

現在は100名を上回るボランティア登録者が活動し、彼らのガイドはわかりやすいと好評だ。同館が親しまれる博物館であり、開かれた博物館でもあるのは、こうした実践の賜物だろう。

「入館者サービスの背後には質のいい展覧会が欠かせません。そうないと、せつない線が開通した効果のほうがあるかない高

神奈川県立歴史博物館：時間＝9時30分～17時、料金＝一般300円ほか、休館＝月曜（祝日の場合は閑館、翌日休館）、所在地＝横浜市中区南仲通5-60、電話＝045-201-0926
展覧会情報：「奇妙奇天烈!? 明治の版画あれこれ」（前期/6月5日～27日、後期/6月30日～7月19日）、「天狗推参！」（9月25日～10月31日）
<http://ch.kanagawa-museum.jp>



大道芸人というと、火を吐く人とか、一輪車に乗る人などがすぐ思い浮かぶのだが、ほかにはどんな人がいるのだろう。火を吐いたり、一輪車に乗つたりは、こわくてできそうもないが、船を吐き出すなら、なんとなくできるような気がする。昔風の帆船に、さびしいひとだけ、そして動物植物も、乗せて、横浜港から漕ぎ出そうか。

われもまた大道芸人 船を吐き さびしきひとのみ 乗せてゆかむか

やへしほ　写真家。1954年生まれ。奈良県出身。同志社女子大学短期大学部日本語日本文学科卒業。96年ドイツに渡り、日本語教師となる。帰国後、平地熱に師事し、独立。渡辺貞夫らによる撮影を多く撮影している。

みずはらしおん　歌人。1959年神奈川県生まれ。甲斐田大学大学院修了。春日井建に師事し、『陰歌集』『ひあんか』『窓へまわつど』『くわんおん(観音)』『いろせ』『あかるたぐ』、著作『阿弥の墓』『星の肉体』『京都うした物語』などを発表。現代歌人協会賞受賞。駿河梅花文學賞、河野愛子賞など多数受賞。

いいサッカーを見せるために F・マリノスに賭ける

木村和司さん

横浜F・マリノス監督



きむら かずし
横浜F・マリノス監督。1958年、広島県生まれ。明治大学卒業後、日産自動車サッカー部に入部。86年純国産第1号のプロサッカーブレーヤーとして契約し、93年のJリーグ発足に伴い、横浜マリノスへ。95年に引退した後は、NHKの解説者やフットサル日本代表監督(2001年)、サッカースクール指導者などを歴任。2010年度から横浜F・マリノスの監督に就任。

生まれ育った広島より故郷はもはや横浜

「ミスター・マリノス」といえば、中村俊輔でも松田直樹でもなく、やはり真っ先に、この人の名を思い浮かべる人が大半を占めるに違いない。

木村和司――。Jリーグが発足する以前から横浜マリノスの前身にあたる日産自動車サッカー部で名を馳せ、今年から横浜F・マリノスの監督に就任。古巣への復帰を待ち望んでいた浜つ子を大いに沸かせた。チームの練習場であるマリノスタウンで、木村監督はいう。

「このあたり一帯は、本当に変わりましたね。何しろ、私が横浜で暮らし始めた頃は海でしたから」

1981年(昭和56)に日産に入社した木村監督は、その翌々年から横浜に住まいを移した。そして、午前中の勤務を終え、鶴見区獅子ケ谷にあつたグラウンドに通う日々が続いた。

「いまは地下鉄が延びて移動に便利な街になりましたよね。今も当時も上永谷に住んでますけど、そこが終点でしたから。東京ほど都会すぎないのが横浜の魅力。いま住んでいるあたりは近くに牧場があるて、牛の声がのどかに聞こえる。道を少し入れば畑も残っててね」

そして、もはや生まれ育った広島よりも、横浜が故郷だと思えてくるようになったと木村監督は語る。

「だって、わし、浜つ子じやん(笑)。いまでは広島には『行く』という感覚だけど、みなとみらいの夜景を見ると、『帰ってきた』と思いますね」

浜つ子はサッカーから遠ざかっていた!?

横浜の街を歩いていると、ファンに声をかけられることも多い。

「この間、『今年から、また見るよ』といわれました。横浜の人によさを感じ、とてもうれしかったですね。でも、うれしい反面、しばらくサッカーから遠ざかっていた人がいるのも事実。つまり、いいサッカーを見せてこなかつた、ということですから」

確かに、03年と04年の連覇以来、残念ながらF・マリノスは優勝を逃してきた。したがって、木村監督に寄せるサポートの期待は実に大きい。

「当然ですが、監督は責任のある仕事。そして、このクラブに帰つて来られたのもひとつ縁だと思います。だから私は、F・マリノスに賭ける。これからは積極的に、いいサッカー、いい試合を見せて行きたい」

多くの人にサッカーを楽しんでほしい

なお、日産で活躍していた頃と比べると、いまの選手たちは甘えている面があるよう映ると木村監督は明かす。

「今までこそサッカーは当たり前のよう

にテレビや新聞に取り上げられるけれど、当時は天皇杯しか報道されなかつた。私たちが天皇杯に強かつたのは、その理由が大きい。つまり、テレビで放映されるチャンスを活かし、もっと多くの人たちにサッカーを知つてもらいたい楽しんでほしいと思つて必死でしたからね。その点、いまの選手たちはぬるま湯に浸かつてゐるよう

思つてならない。もっとハンガリーにサッカーを追求しないとダメ。それにF・マリノスは都会の真ん中に素晴らしい練習施設がある。ここは日本でいちばん環境が整つていて、こんな施設、他はない。そ

のうえファンにも恵まれている。だからこそいい成績を収めないと」

木村監督は現役引退後に、サッカースクールを手がけた。これも、サッカーをより広く普及し、その魅力を広げたかったんだと語る。

「だから選手たちには、子どもたちに夢や希望を与えられるいいサッカーをしてほしい」

初めてのフルアルバムは 集大成にして自信作

ポップロックバンドCapoock・ドラムス
YOKOさん



YOKO
埼玉県生まれ。2003年1月、同じ大学の軽音楽部で出会った、Junko(ボーカル)、おおさわ(ギター)、優季(ベース)とともにバンドを結成。渋谷を拠点に活動を展開し、自主制作CDもリリース。06年、FMヨコハマ「YOKOHAMA MUSIC AWARD」でマンスリーチャンプに輝き、拠点を横浜に移す。以来、新横浜のライブハウス「ベルズ」でマンスリーライブを実施。これまで発表したCDに「Pop Smile」「素敵なストーリー」「宇宙キャラバン」「シュガーメロディ」など。

ジャケットデザインも重視した新作CD

この6月4日、横浜を拠点に活動中のバンドCapoock(カポック)のCD「Love-iy!」が発売される。ちなみに、この日は虫歯予防デー。だからというわけではないが、スウィートで澄みきった歌声がとても魅力的なアルバムだ。「これまでのCapoockの集大成であり、自信作です!」

こう胸を張るのは、ドラムスのYOKOさん。かつて発表したシングルに書き下ろしも加え、全10曲を収録。そして、華やかなピンク色のジャケットは、タイトルどおりラブリーだ。

「学生時代の同級生のデザイナーに頼み、とても素敵なものになりました。私はCDをジャケットを見て買うことが多いから、デザインは重要なんです」

2003年(平成15)に結成されたCapoockにとって、このCDは初のフルアルバムにある。一年半前、コンピレーションCD「大関東ギターエロスⅣ」に参加したこと、今回の発売元であるレッドシユーズレコードのプロデューサーの目に留まつた。

「最近、音楽はダウンロードして聴くことが増えつありますが、これからもC

Dは残ってほしい。CDは、ずっと大切に使ってもらえますからね」

肺活量不足で、打楽器の演奏を始めた

YOKOさんは中学生のときに打楽器と出会った。吹奏楽部でバーカッショーンを担当したのだ。とはいえ、望んで打楽器を始めたわけではない。YOKOさんは、苦笑しながら振り返る。

「管楽器志望でしたが、新入生のテストで肺活量が不足しているといわれ、打楽器を演奏することになったんです」

そして大学の軽音楽部で、本格的にドラムを始めた。

「ギターやベースと違つて、ドラムは電気を通さずに音が出せます。それに、音が共鳴しますから、演奏する場所によって音が違う。しかも温氣の影響を受けやすいので、天候にも左右されるデリケートな楽器です。そのあたりが、ドラムの魅力といえますね」

目標とするドラマーはビートルズのリング・スター。「シンプルに聴こえますが、実はすごく凝った演奏に憧れます」

この街を中心活動を続ける。

「引っ越した頃は坂が多くて驚きましたが、横浜は住みやすく街並みがきれい。路上ライブでは、お客様との距離が近

いので、コーラスも生声で届きます。それに、素敵な中古CD屋さんが多いのも魅力。ただ、いたん店に入ると、なか

Capoockは、歌ありきのバンド

Capoockは、大学のサークルで出会った仲間とともに結成。卒業した後も

なか出でこれなくて……」▼



Photo: 浮田秀人



Photo: 坂元豊



天王町商店街

横浜ルネサンス No.15

2010年5月31日発行
発行 横浜信用金庫
〒231-8466 横浜市中区尾上町2-16-1
Tel:045-651-1451 (代) Fax:045-651-2303
<http://www.yokoshin.co.jp>
横浜信用金庫総合企画部
(横浜ジェリービーンズ俱楽部)
<http://www.yokoshin.co.jp/jbeans.html>
E-mail:jbeans@yokoshin.co.jp
制作・デザイン PortSide Station Co., Ltd.

© 横浜信用金庫 Printed in Japan 本誌記事の無断転載・複写を禁じます
本誌に関するお問い合わせは、横浜信用金庫総合企画部:045-651-1451(代)まで

ジエリービーンズコンサー
ト「明日があるさ」

ビーンズコンサート「横濱三塔物語」ジエリー

ジエリービーンズコンサー
ト「今商店街」

横浜集客キャンペーン「横浜三塔物語」(主催…横浜三塔物語実行委員会)の一環として、横浜市(2010年3月21日(日))に、三塔が一望できるスポットの一つである横浜港大さん橋でコンサートを開催しました。横浜を中心活躍する、滝研太郎とビストルモンキーズ、N.U.、CHURUCHUW、ウラジミール・レインフ、フロウズンの5バンドが「みなさんを元気にしたい!」と、集まつた約200名のお客様を音楽と映像のステージで盛り上げました。



横浜信用金庫では、横浜のマーケティングを実践する「横浜ジェリービーンズ俱楽部」事業を展開しています。同俱楽部は「横浜の価値を高める各種の活動を行うことを目的的」としており、横浜観光プロモーションフォーラムによる認定事業になっています。ここでは、最近実施された同事業についてご紹介します。

横浜の観光・コンベンションに携わる約180の企業・団体・市民事業所からなる組織で、横浜への来訪者を増やすことを目的として活動しています。「横浜ルネサンス」を発行する「横浜ジェリービーンズ俱楽部」事業は、同フォーラムの認定事業となっています。

How To Taste Musics In Yokohama.

横浜の聴き方 第8回

『Y.O.K.O.H.A.M.A.』 柳ジョージ&レイニー・ウッド



横浜の聴き方 第8回
柳ジョージ&レイニー・ウッド
1969年の銀座・有楽町あたりを歩く。まだ朝日新聞社、読売新聞社や旭屋書店、近藤書店などが1950年生まれという設定の「薰くん」はある。1950年生まれという設定の「薰くん」は1977年「ぼくの大好きな青髭」で終了した。各タイトルに入っている赤黒白

い

のは柳ジョージ&レイニー・ウッドの3作目のアルバム『Y.O.K.O.H.A.M.A.』(1979年)である。タイトルどおり横浜をテーマとした作品で全10曲が収録されている。前半から後半の曲にかけて次第に歌詞に横浜の色彩が濃くなっています。『FRENCEの向こうのアメリカ』は、第6回で取扱うなど思った。

今回取り上げるのは柳ジョージ&レイニー・ウッドの3作目のアルバム『Y.O.K.O.H.A.M.A.』のサウンドは落ち着いていて品が良く、ある時代の街を歌うという難度の高いテーマに挑んで見事に成功している。このアルバムは、音楽による横浜の貴重なアーカイブ(archive)といえるかもしれません。(中島久)▼

約40年を経て「薰くん」は今年還暦を迎えることになるが、銀座という街は大きく変わった。前述の朝日新聞社や旭屋書店などが消えて、ファストファッショングの店が立ち並んでいる。「赤頭巾ちゃん気をつけて」はかつての銀座界隈を記録した作品としても興味深い(「ぼくの大好きな青髭」も同時期の新宿を描いている)。「薰くん」とほぼ同世代の柳ジョージ(1948年生まれ)が歌う横浜も、みなとみらいなど影も形も無かつた「あの頃の横浜」である。ブルースとロックが融合した『Y.O.K.O.H.A.M.A.』のサウンドは落ち着いていて品が良く、ある時代の街を歌うという難度の高いテーマに挑んで見事に成功している。このアルバムは、音楽による横浜の貴重なアーカイブ(archive)といえるかもしれません。(中島久)▼

り上げた「本牧メルヘン」同様、「アメリカ」(米軍)と日本が共存していた街、本牧をテーマにしている。アルバムのコンセプトを象徴する曲である。

柳ジョージはギターを担当しており、ブルージーな歌謡と併せて和製クラップトンと呼ばれた。このアルバムでも彼の魅力が充分にたんのうできる。庄司薰は自作についてJ・D・サリンジャーとの類似性を指摘して反発していたが、エリック・クラプトンになぞらることは柳にとっては歓喜だろう。横浜生まれの柳ジョージは後期のザ・ゴールデンカッブスにベーシストとして所属していた。『ヨコハマ』というタイトルのアルバムを制作する資格のある数少ない人間のひとりである。

柳ジョージはギターを担当しており、ブルージーな歌謡と併せて和製クラップトンと呼ばれた。このアルバムでも彼の魅力が充分にたんのうできる。庄司薰は自作についてJ・D・サリンジャーとの類似性を指摘して反発していたが、エリック・クラプトンになぞらることは柳にとっては歓喜だろう。横浜生まれの柳ジョージは後期のザ・ゴールデンカッブスにベーシストとして所属していた。『ヨコハマ』というタイトルのアルバムを制作する資格のある数少ない人間のひとりである。

地域の未来のために。

私たちは、地域の活性化のためにさまざまな活動を実施しています。

Corporate



盲導犬育成支援



《よこしん》
キッズ・マネースクール



《よこしん》
小学生サッカー教室

Social



横浜美術館連携プログラム
「出張美術教室」



地元若手アーティスト支援
「ジェリービーンズコンサート」



地元大学への寄付講座



地域活性化のコンサート開催



中学生の職場体験学習



地域情報誌
「横浜ルネサンス」の発行

Responsibility



地元商店街イベントに参加・協力



《よこしん》野球教室



エコキャップ運動

横浜信用金庫

<http://www.yokoshin.co.jp/>